

大学等におけるアイヌの人々の遺骨の保管状況の調査結果

平成25年6月
平成26年1月更新
文部科学省

1. 調査の目的

平成23年6月のアイヌ政策推進会議「民族共生の象徴となる空間」作業部会報告書において、「集約の対象となる人骨を特定し、人骨の返還や集約の進め方に関する検討を行うため、各大学等の協力を得て、アイヌの人骨の保管状況等を把握する」とされたことを踏まえ、国公立大学等を対象に調査を実施した。

2. 調査の時期

平成23年11月に調査票を各大学等に発出し、平成24年12月25日を回答期限として、平成24年現在の保管状況を調査した。

3. 調査の対象

国公立大学（※）、公私立短期大学（※）、大学共同利用機関法人

※私立大学、私立短期大学については、医学・看護学部系（解剖学等）、文学部系（文化人類学、考古学系）を設置する大学、短期大学を対象としたが、各学校法人には、これらの学部以外において保管している可能性がある場合は対象を追加して調査を行うよう依頼

4. 遺骨を保管している大学の数と遺骨の数

- ・遺骨を保管している大学の数は12大学である。
(北海道大学、東北大学、東京大学、新潟大学、京都大学、大阪大学、札幌医科大学、大阪市立大学、金沢医科大学、南山大学、天理大学、岡山理科大学)
- ・個体ごとに特定できた遺骨は1,636体である。
うち、個人が特定できる遺骨は23体である。
- ・個体ごとに特定できなかった遺骨が515箱に納められている。
(注) 箱の大きさは大学により異なる。
(注) このほかに、副葬品のみが納められた70箱、獣骨が納められた3箱、墓標1があるとの回答があった。

大学名	個体ごとに特定できた遺骨		個体ごとに特定できなかった遺骨
		うち、個人が特定できる遺骨	
北海道大学	1,027体	19体	484箱
東北大学	20体		1箱
東京大学	198体		6箱
新潟大学			17箱
京都大学	94体		
大阪大学	39体		2箱
札幌医科大学	251体	4体	
大阪市立大学	1体		
金沢医科大学	4体		
南山大学	1体		
天理大学			5箱
岡山理科大学	1体		
計12大学	計 1,636体	計 23体	計 515箱

5. 個体ごとに特定できた1,636体について

(1) 大学が保管に至った時期・経緯

①時期

戦前においては、明治6年から昭和19年までの期間に899体（約55%）が収集され、戦後においては、昭和22年から平成24年までの期間に609体（約37%）が収集された。また、大学が保管に至った時期が不明の遺骨が128体（約8%）ある。

②経緯

「研究のための収集」による遺骨が986体（約60%）あり、「（地方公共団体や個人等の）他者からの寄託」による遺骨が374体（約23%）、「地方公共団体からの依頼による調査」による遺骨が213体（約13%）、その他の場合が7体ある。また、大学が保管に至った経

緯が不明の遺骨が 56 体（約 3%）ある。

(2) 発掘・発見された時期・経緯等

①時期

戦前においては、905 体（約 55%）が発掘・発見され、戦後においては、550 体（約 34%）が発掘・発見された。また、発掘・発見された時期が不明の遺骨が 181 体（約 11%）ある。

（注）昭和 55 年以降に発掘・発見された遺骨は、遺跡の発掘や工事中の発見による。

②経緯

発掘された遺骨が 962 体（約 59%）、墓地改葬に伴う遺骨が 219 体（約 13%）、工事や地質調査等の際に発見された遺骨が 103 体（約 6%）、その他の場合が 38 体（約 2%）ある。また、発掘・発見された経緯が不明の遺骨は 314 体（約 19%）ある。

③発掘・発見主体

大学の研究者が発掘・発見した遺骨が 869 体（約 53%）、地方公共団体が発掘・発見した遺骨が 329 体（約 20%）、個人等、地方公共団体以外の者が発掘・発見した遺骨が 96 体（約 6%）、発掘・発見した主体が不明の遺骨が 342 体（約 21%）ある。

④発掘・発見された場所

北海道が 1,439 体（約 88%）であり、樺太（サハリン）が 136 体（約 8%）、千島列島が 48 体（約 3%）、発掘・発見された場所が不明の遺骨が 13 体（約 1%）である。

(3) 大学に保管されている遺骨の状況

①遺骨の部位

頭骨が 1,013 体（約 62%）、全身骨が 541 体（約 33%）、四肢骨等が 52 体（約 3%）、その他（歯など）が 30 体（約 2%）である。

②遺骨の帰属年代

明治時代以降の遺骨が 204 体（約 12%）あり、江戸時代以前の遺骨が 225 体（約 14%）ある。また、江戸時代頃から明治時代の遺骨が 158 体（約 10%）ある。帰属年代が不明の遺骨が 1,049 体（約 64%）ある。

③遺骨の性別

男性の遺骨が 330 体（約 20%）であり、女性の遺骨が 245 体（約 15%）である。性別が不明の遺骨が 1,061 体（約 65%）ある。

④遺骨の推定年齢

成人の遺骨が1,403体(約86%)あり、子どもの遺骨が202体(約12%)ある。不明の遺骨が31体(約2%)ある。

⑤遺骨の文化財への認定の有無

地方公共団体により文化財に認定された出土品である遺骨が186体(約11%)ある。

(文化財に認定した地方公共団体)

北海道及び北海道内の23市町村

⑥副葬品の有無

副葬品があることが確認できた遺骨は405体(約25%)である。そのうち、15体に伴う副葬品は、地方公共団体により文化財に認定された出土品である。

(文化財に認定した地方公共団体)

北海道及び北海道内の3市町

(注) 以上に加え、特定の遺骨との対応が明確ではない副葬品がある旨の回答があった。なお、これらの副葬品には、地方公共団体により文化財に認定された出土品はない。

⑦保管部局

保管部局が医学系の学部・研究科である遺骨が1,279体(約78%)、大学博物館である遺骨が297体(約18%)ある。また、その他の保管部局である遺骨が60体(約4%)ある。

⑧保管場所

医学系の学部・研究科で保管されている遺骨が1,291体(約79%)あり、大学博物館で保管されている遺骨が305体(約19%)ある。また、その他の施設で保管されている遺骨が40体(約2%)ある。

⑨保管方法

木製の箱に保管されている遺骨が1,518体(約93%)あり、プラスチック製の箱に保管されている遺骨が112体(約7%)、紙製の箱に保管されている遺骨が6体ある。

(注) 箱の大きさは大学により異なる。

6. 個体ごとに特定できなかった515箱について

(1) 大学が保管に至った時期・経緯

①時期

戦前においては、明治21年から昭和18年までの期間に107箱（約21%）が収集され、戦後においては、昭和24年から昭和48年までの期間に55箱（約11%）が収集された。また、大学が保管に至った時期が不明の353箱（約69%）がある。

②経緯

「研究のための収集」による遺骨が111箱（約22%）、「地方公共団体からの依頼による調査」による遺骨が33箱（約6%）、「(地方公共団体や個人等の)他者からの寄託」による遺骨が14箱（約3%）、収集した民族文化資料の中に含まれて収蔵された遺骨が5箱（約1%）、大学が保管に至った経緯が不明の遺骨が352箱（約68%）がある。

(2) 発掘・発見された時期・経緯等

①時期

戦前において発掘・発見された遺骨が101箱（約20%）あり、戦後において発掘・発見された遺骨が50箱（約10%）ある。また、発掘・発見された時期が不明の遺骨が364箱（約71%）ある。

②経緯

発掘された遺骨が145箱（約28%）あり、墓地改葬に伴う遺骨が4箱（約1%）ある。発掘・発見された経緯が不明の遺骨が366箱（約71%）ある。

③発掘・発見主体

大学の研究者が発掘・発見した遺骨が108箱（約21%）、地方公共団体が発掘・発見した遺骨が41箱（約8%）、地方公共団体以外の者が発掘・発見した遺骨が3箱、発掘・発見した主体が不明の遺骨が363箱（約70%）ある。

④発掘・発見された場所

北海道が410箱（約80%）であり、樺太（サハリン）が10箱（約2%）、千島列島が16箱（約3%）、発掘・発見された場所が不明の遺骨が79箱（約15%）である。

(3) 大学に保管されている遺骨の状況

①遺骨の部位

全身骨が324箱（約63%）、四肢骨等が84箱（約16%）、頭骨が22箱（約4%）、その他（歯など）が85箱（約17%）である。

（注）全身骨の324箱の大部分は、5.（3）①の個体が特定された頭骨のい

ずれかと一体化できる可能性がある。

②遺骨の帰属年代

「明治以前」の遺骨が1箱、「明治頃」の遺骨が6箱（約1%）、その他の遺骨が11箱（約2%）ある。帰属年代が不明の遺骨が497箱（約97%）ある。

③遺骨の文化財への認定の有無

地方公共団体により文化財に認定された出土品である遺骨はない。

④副葬品の有無

副葬品があることが確認できた遺骨が13箱に納められている。地方公共団体により文化財に認定された出土品である副葬品はない。

（注）以上に加え、遺骨が納められた特定の箱との対応が明確ではない副葬品がある旨の回答があった。なお、これらの副葬品には、地方公共団体により文化財に認定された出土品はない。

⑤保管部局

保管部局が医学系の学部・研究科である遺骨が499箱（約97%）、大学博物館である遺骨が13箱（約3%）ある。また、その他の保管部局である遺骨が3箱（約1%）ある。

⑥保管場所

医学系の学部・研究科で保管されている遺骨が500箱（約97%）あり、大学博物館で保管されている遺骨が13箱（約3%）ある。また、その他の施設で保管されている遺骨が2箱ある。

⑦保管方法

木製の箱に保管されている遺骨が508箱（約99%）あり、紙製の箱に保管されている遺骨が5箱（約1%）、プラスチック製の箱に保管されている遺骨が2箱ある。

（注）箱の大きさは大学により異なる。